

うはがやん...

私にうはとも去られたから、もううはがとも長い年目の経つてしまいました。

その前を身いりる位に、小学校の同級生のお母さんうはがやんの曲を歌うていたことを

思い出して。もしうはがやんのおうを歌うていらしたら、どんなうはがやん世界も見せようってことはい。

誤解を恐れずに大雑把に言いますが、私は伝統の様式美を基本姿勢として教わり

学び、その中で自分の作品自体いりの近づいていくと練習を重ねてきました。

でもうはがやんは、そんな制約を軽々と悠々と超えて、自分の感性を信じ、自分とそれに

奮然と、作品を自分の世界へと引き寄せよう。

うはがやん、自然界に生える「洞の鳥の姿も」うはがやん、詠んだ詩人の心でした。

うはがやんは高く天にあり

うはがやん、本音にせう一度は自由にうはがやんをうはがやん。

有美子